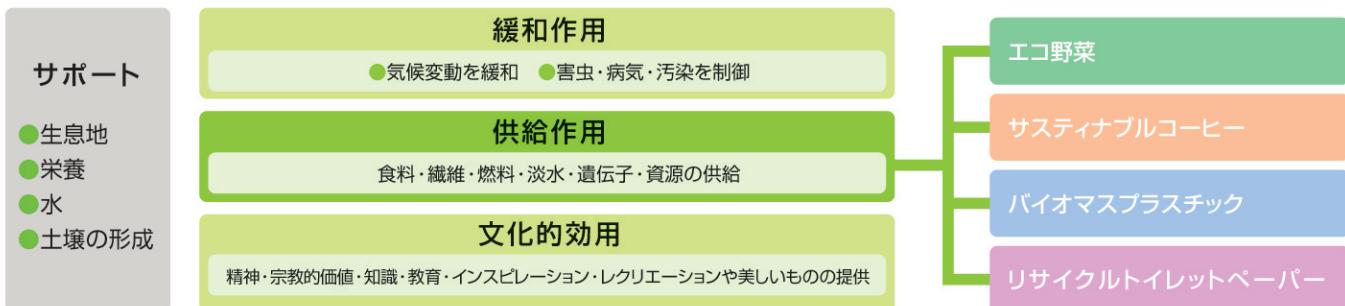




▶ 生物多様性を守る取り組み

私達が生きるために必要な酸素は、植物などによってつくられ、汚れた水も微生物などによって浄化されています。そして私達人間は、いろいろな生き物からさまざまな「恵み」いただいて生きています。毎日のテーブルの上にある食べ物は、みんなそうした「生物多様性の恵み」です。私達がこうした「恵み」を与えてくれる「生物多様性」を育む環境を守ってつくられた食品を選ぶことが、「生物多様性」を守ることにつながります。

ユニーでは、お客様が買い物をすることによって生物多様性を守ることになる取り組みを、「供給作用」を通して行っています。



エコ野菜

一部の店舗から出た生ごみを利用して、堆肥を作っています。化學肥料に頼らない堆肥を使った畑には、ミミズやカエルなどの生き物がたくさんいます。他の生き物が生きることのできる安全な土で育った野菜は人にも安全です。



バイオマスプラスチック

トウモロコシを原料にしたバイオマスプラスチックを使っています。これは細かくして土に埋めると微生物の働きで土に還ります。



サステナブルコーヒー

安全安心でおいしいコーヒーを、私たちだけではなく私たちの子供達の世代も飲み続けられるように配慮された、ロハス (LOHAS=Lifestyles Of Health And Sustainability) なコーヒーを「サステナブルコーヒー」として販売しています。



リサイクルトイレットペーパー

古新聞や牛乳パックからリサイクルされた再生紙製品は新しい木を切らないので、森林を守ることにつながります。

▶ 森の町内会

ユニーは、古紙のリサイクルに取り組むNPO「オフィス町内会」が上伊那森林組合と連携して行っている「森の町内会」の取り組みに協力しています。「森の町内会」とは、企業が紙を使用する際に、間伐にかかる費用を環境価値として価格に反映させた「間伐に寄与する紙」を選ぶことで、間伐を促進する活動です。この『環境レポート2010』を発行するにあたり、約3.5トンの「間伐に寄与する紙」を使用しました。これは、長野県駒ヶ根市で約0.25haの間伐を促進する力になります。



▶ エコロキッズプロジェクト

次世代を担う子供達に、いろいろな生きものや自然の恵みを体験してもらうために、朝日新聞社と共に「エコロキッズプロジェクト」を開催しました。第一回「里山の恵みを知ろう!」では、2005年に愛知万博の会場にもなった海上の森でムササビに出会ったり、イノシシの水浴びの跡を歩いて、自分達の近くにこんな自然があることを知ったり、水源の湧き水に「川の赤ちゃんだ」と歓声を上げたりと、たくさんの発見がありました。1日の体験や発見をそれぞれがリポートし、「エコロキッズ新聞」を作り上げました。

